

## A Study on Formation of Shopping District in a Town Area and Program for Activating Shopping District in Kichijyoji, Musashino-City, Tokyo

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水谷, 俊博 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/records/320">https://mu.repo.nii.ac.jp/records/320</a>

# 市街地における商店街の構成及び商店街における 活性化への取り組み その3

— 大きな商店集積地域と捉えた吉祥寺駅前地域を対象として —

A Study on Formation of Shopping District in a Town Area and Program  
for Activating Shopping District in Kichijyoji, Musashino-City, Tokyo

水谷 俊博  
Toshihiro Mizutani

## 1. はじめに

近年、商店街を取り巻く環境は著しく変化しており、60年代以降の高度経済成長期より日本各地において生活基盤として機能していた商店街（商店会）が、商店機能の空洞化や人口の減少が原因で、長期間の衰退の一途を辿っている。それは、後継者不足など内面的な問題やモータリゼーションの発達、大型ショッピングセンターの郊外部への出店による利用客の減少、住民ニーズの変容などの影響が原因と考えられる。商店街の衰退、閉鎖などの結果、増加した空き店舗がまちなみの空洞化を生み、まち自体の魅力が低減することにより結果的に地域のコミュニティの弱体化へとつながる可能性も孕んでいる。

本稿の対象地は、吉祥寺の駅前地域である。吉祥寺駅前は多数の商業が集積している地域とみなすことができ、いわゆる商店街というものとは定義づけが違ってくるが、ひとつの大きな商店集積地として捉えることができる。本研究においては、市街地における商店地域の現在の状況を把握し、商店街構成の変容の特徴を明らかにするための元資料として定着させるとともに、今後の商店街活性化への道をさぐることを目的とする。その第一段階として、本研究では対象地域における人々の行動経路の調査をおこなっている。

本稿においては地域における活性化への取り組みとして、対象地域において2008年度におこなった地域活性化のためのプロジェクトの実践例2件の報告も併せておこなう。

## 2. 吉祥寺駅前地域の概要

### 2.1 吉祥寺の歴史概略と魅力

吉祥寺は、1658（万治元）年の大火で被災した江戸市内の水道橋付近にあった吉祥寺という門前町の住民が転住、開墾し、吉祥寺村として形成された。月窓寺、光専寺、蓮乗寺の寺域もこのとき決まった。1889年（明治22）年、吉祥寺、西窪、関前、境の4村が合併、甲武鉄道（現・JR中央線）が新宿～立川間に開通した。その後、帝都電鉄（現・京王電鉄井の頭線）が、1934

(昭和9)年に開通した。

戦後、吉祥寺駅周辺は、強制疎開地跡にマーケットが生まれ、駅前通り、仲町通り、平和通り、公園通りなどの商店街が発達した。昭和30年頃から、吉祥寺ダイヤ街（アーケード）の開設、平和通りのアーケード設置、レンガ街の開設、吉祥寺名店会館のオープンなど繁華街として発展。生活密着型の情報の発信基地として、新宿以西最大の商業都市として成長してきた。

昭和40～60年代の再開発以来、吉祥寺は、周辺に広がる良質な住宅街の生活中心としてのみならず、広域から人々が集まる多摩地域最大の商業核として大きな発展を遂げてきた。そこに形成されてきた個性的な商業集積や、多様な都市文化は都市内の貴重な自然空間である井の頭公園とともに、吉祥寺の大きな魅力となっている。

吉祥寺の中心部は、駅を中心として半径400m程度の広がりを持ち、その中の半径200m程度のエリアに主要な大型店等が立地している。集積によって生まれる街中ならではの賑わいがあり、歩いて買い物を楽しむことができる適度な広がりや距離感を持つ街である。



写真1 吉祥寺駅北口周辺



写真2 ハモニカ横丁（吉祥寺セントラル）



写真3 吉祥寺サンロード商店街

## 2.2 吉祥寺における商店集積の概要

1966（昭和41）年、武蔵野市は吉祥寺駅周辺都市計画事業計画を発表し、スタートさせた。中央線が高架化され、ロンロンがオープン。伊勢丹、東急、パルコなどの大型商業施設が建設された（概略図はP45の図11参照）。それと共に、周辺道路も整備され、バス、タクシーなど交通網も発展して、都内有数の商業地域と発展した。

吉祥寺における商店のあり方の特徴は、百貨店、専門店ビルなど10店以上の大型店舗と、駅北口前に存在するハモニカ横丁や中道通り商店街をはじめとする地元の商店街との共存の中に成り立っているという点である。また集積拠点である大型百貨店が駅から少し離れて立地しており、これが他の郊外都市にみられる大型店舗による駅前一極集中の排他の状況とは異なっているといえる。

吉祥寺の街路の基本的な構成は格子状であるが、厳密な碁盤目状の格子型ではなく、さまざまな大きさの格子が入り組んだかたちで構成されている。またその格子状の街路がJR中央線線路と約30度の角度で斜めに交差しているのも特徴である。吉祥寺駅北側はそれらの街路にそって、複数のアーケードが存在し、大型店舗が分散配置されている。その大型店舗の分散配置により、駅前一極集中の他の郊外都市に見られる状況と異なり、各大型店舗の隙間に地元商店街が存在す

ることにより、小規模な地元商店街が街全体をつなぐことで、人々の流れが生み出されている、という構成となっている。

本稿の調査範囲は、これらの商店集積地をベースとし、吉祥寺駅を中心とし半径400m内の範囲とした。

### 3. 吉祥寺における人々の行動経路の個体調査

#### 3.1 研究方法

都市における人々の活動を把握することは都市の構成を把握する上で、非常に有効な手段のひとつである。本稿では吉祥寺駅を街の中心として捉え、吉祥寺駅を基点とした人々の行動経路の個体調査をおこなった。調査場所は吉祥寺駅北口と南口の2箇所。

調査対象者は無作為に選定した、吉祥寺駅を通過する人々とする。行動経路の始点は吉祥寺駅

表1 調査対象者一覧(南口)

対象者番号	性別	年代	調査日	始点時刻	終点時刻	移動時間	移動距離
1	男	70	8.30	15:57:28	15:58:14	00:00:46	38.8m
2	女	50	8.30	16:00:46	16:02:08	00:01:22	75.3m
3	女・子供	40	8.30	16:07:54	16:09:58	00:02:04	83.3m
4	女女	10	8.30	16:13:08	16:14:34	00:01:26	79.6m
5	女	10	8.30	16:17:12	16:20:30	00:03:18	217.4m
6	女女	50	8.30	16:31:42	16:32:57	00:01:15	79.2m
7	男女・子供	40	8.30	16:34:40	16:37:40	00:03:00	139.9m
8	男	30	8.30	16:41:52	16:43:56	00:02:04	154.6m
9	男	30	8.30	16:51:58	16:53:16	00:01:18	131.6m
10	女	50	8.30	16:56:32	16:56:48	00:00:16	27.5m
11	女	40	9.16	15:57:48	16:00:48	00:03:00	120.3m
12	男女	20	9.16	16:11:12	16:13:30	00:02:18	78.6m
13	男	50	9.16	16:17:10	16:17:54	00:00:44	54.8m
14	女	50	9.16	16:20:02	16:24:52	00:04:50	257.6m
15	男女	20	9.16	16:36:16	16:38:58	00:02:42	113.8m
16	女	20	9.16	17:00:52	17:07:06	00:06:14	331.4m
17	女	10	9.16	17:14:24	17:16:36	00:02:12	152.8m
18	女女	50	9.17	14:21:34	14:27:10	00:05:36	350.5m
19	女	10	9.17	14:33:28	14:34:36	00:01:08	71.7m
20	男	80	9.17	14:37:32	14:38:04	00:00:32	38.4m
21	女	20	9.17	14:40:48	14:42:38	00:01:50	79.1m
22	女	30	9.19	14:21:16	14:23:50	00:02:34	186.0m
23	女女	60	9.19	16:50:18	16:53:02	00:02:44	151.8m
24	女女	30	9.20	13:57:44	14:01:06	00:03:22	136.4m
25	女女	10	9.20	14:11:56	14:15:58	00:04:02	151.5m
26	女	70	9.20	14:22:00	14:25:52	00:03:52	151.3m
27	男	60	9.20	14:29:30	14:31:02	00:01:32	117.1m
28	男	20	9.20	14:33:26	14:34:26	00:01:00	77.0m
29	男女	60	9.20	14:37:08	14:38:30	00:01:22	77.0m
30	女	10	9.20	14:41:14	14:43:36	00:02:22	166.7m
31	女	30	9.20	14:48:08	14:50:46	00:02:38	92.4m
32	女	40	9.20	14:53:18	14:56:26	00:03:08	167.5m
33	男	10	9.20	14:59:58	15:03:00	00:03:02	101.1m
34	女	30	9.23	12:45:38	12:47:40	00:02:02	72.6m
35	男	40	9.23	12:56:04	12:58:24	00:02:20	203.5m
36	男女	20	9.23	13:11:04	13:13:48	00:02:44	76.3m
37	男	10	9.23	13:27:38	13:30:06	00:02:28	72.3m
38	男	50	9.23	15:00:18	15:00:56	00:00:38	43.8m
39	女	60	9.23	15:02:36	15:03:58	00:01:22	72.3m
40	女	30	9.23	15:06:42	15:08:06	00:01:24	73.0m
41	女・子供	20	9.23	15:34:42	15:36:32	00:01:50	75.6m
42	女	10	9.23	16:27:10	16:29:38	00:02:28	73.0m
43	男	50	9.25	12:39:54	12:42:22	00:02:28	156.5m
44	女	30	9.25	12:49:12	12:49:44	00:00:32	38.9m
45	男女	50	9.25	12:52:36	12:57:06	00:04:30	197.0m
46	女	60	9.25	13:07:58	13:14:10	00:06:12	226.1m
47	女	70	9.25	13:19:26	13:23:36	00:04:10	98.5m
48	女	30	9.25	13:26:42	13:29:02	00:02:20	75.0m
49	女	20	9.25	13:31:38	13:34:16	00:02:38	127.6m
50	女	20	9.25	13:38:10	13:39:22	00:01:12	77.9m

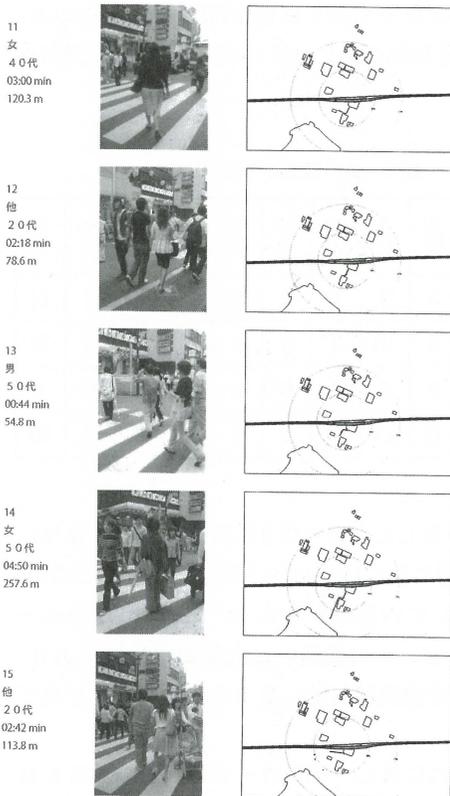


図1 行動経路調査シート  
(地図上の円心円は半径200m、400mを表す)

南口、北口、それぞれの横断歩道を渡った時点とする。終点は、歩行というアクティビティ以外の行為（例えば、商店施設に入る、停留所に並ぶ、自動販売機で商品を購入する、自転車に乗るなど）が行われた地点とする。また調査範囲である吉祥寺駅を中心とし半径400m内の範囲を超えた場合は、その地点を終点とする。

調査対象人数は100人。南口、北口からの行動経路を同等に比較するため、北口、南口の各出口における調査個体数を50人ずつとし、性別・年代、始点から終点までの移動時間・移動距離、行動経路を記録した。調査対象者を性別・年代別に分け、移動時間・移動距離・行動経路、それぞれの関係性を分析する。

性別は男・女・その他（ファミリー（親子連れ）又はカップル）の3項目に分類する。年代は10歳ごとに10代から80代の8つに分類。移動時間は1分毎に区切り、移動距離は50m毎に分類をする。調査項目の記載した調査シートを図1、調査対象者一覧を表1に示す。

### 3.2 個体調査結果

南口・北口それぞれ50人ずつ、計100人の行動経路を調査した結果を整理したものを示す。表2、3の結果から南口、北口ともほぼ性別の比率は同じになっており女性が60%程度を占める。年代別に関しては南口は10、20、30、50代が各20%程度と多く、北口は10代、20代が各25%程度と多くを占めている。

表2 南口調査対象者の区分

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男	2	1	2	1	3	1	1	1	12
女	7	4	7	2	5	3	2	0	30
他	0	4	0	2	1	1	0	0	8
合計	9	9	9	5	9	5	3	1	50

表3 北口調査対象者の区分

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男	6	2	1	0	0	1	3	1	14
女	6	10	2	2	5	2	3	2	32
他	0	1	2	0	0	1	0	0	4
合計	12	13	5	2	5	4	6	3	50

ここでは各調査項目の中で、性別と移動距離の関係を表したものを図2に示す。合計と女性に関してしてみると、移動距離の山が交互に表れている。特に北口は51m～100m、151m～200m、251～301mが高くなっておりきれいに山と谷が連続しているのが分かる。これは、250m～300m範囲には大型商業施設である東急百貨店があるなど、その範囲内に大型商業施設があり、吉祥寺においては大型商業施設が駅から離れた場所にも分散配置していることとの関係性が見てとれる。

男性をみてみると、南口では150m以内の傾向が強いのに対し、サンロードの終点である五日市街道まで行動経路が達しているなど、北口では500mを超える個体も見て取れる。これも大型商業施設などの配置の関係と関係性が表れている。その他、家族連れやカップルは51m～200m圏内が主な移動範囲といえる。

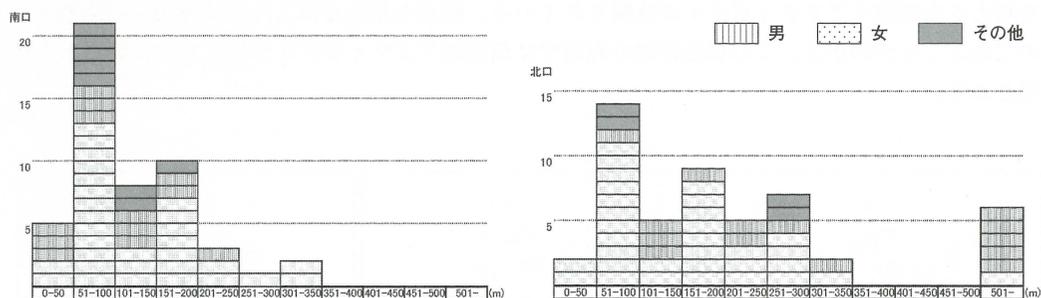


図2 性別と移動距離の関係 (左：南口、右：北口)

### 3.3 行動経路の調査結果

ここでは各項目における行動経路に関する調査結果の中で、移動距離と行動経路の関係性に関して考察する。図3から図10に駅からの移動距離50m毎に分類した、駅からの行動経路の位置一覧を示す。人々の移動経路が重なる部分が移動経路の線が太くなるように表現している。

移動距離が0m～50mに該当する個体数は、南口5人・北口2人の計7人。ここでは他の距離範囲で見受けられるような南北の軸というものは見られない(図3参照)。移動距離が51m～100mに該当する個体数は、南口21人・北口14人の計35人であり、南口北口共通して最も多い人数となった。南口においては大型商業施設である丸井に行動経路が集中している。それでも駅周辺からは広がりを持たず、駅前以外でのアクティビティが活発ではないことが読みとれる(図4参照)。移動距離が101m～150mに該当する個体数は、南口8人・北口5人の計13人である。南口北口共通して、行動経路のメイン軸である南北軸を通っていることが分かる。行動経路が南北軸に集中しており、街への広がりを持っていない。特に南口では、バス利用者が多く、商業目的よりも交通目的によるアクティビティの傾向が強いことがわかる(図5参照)。移動距離が151m～200mに該当する個体数は、南口10人・北口9人の計19人である。この移動距離の範囲から、行動経路の枝分かれが活発になっている。伊勢丹などの大型商業施設へアクセスできることが挙げられる(図6参照)。移動距離が201m～250mに該当する個体数は、南口3人・北口5人の計8人である。151m～200mよりもさらに行動経路の枝分かれが活発になっている様子が見える。伊勢丹から東急百貨店へと行動経路が達することから、街に広がるアクティビティが発生するようになる。この移動距離の範囲が北口のアクティビティの核となる範囲であることが推定される。一方、南口においては半径200m付近で商業的施設がなくなることから、商業的なアクティビティがあまり見受けられなくなる(図7参照)。移動距離が251m～300mに該当する個体数は、南口1人・北口7人の計8人である。北口では商店街を回遊するようなアクティビティが見て取れる。北口においては行動経路の枝分かれが最もみられる範囲である(図8参照)。移動距離が301m～350mに該当する個体数は、南口2人・北口2人の計4人である。北口においては半径200m圏内を回遊していることがわかる。南口では商業施設に達していないことをみると、商業的アクティビティの傾向は薄いことがわかる(図9参照)。移動距離が501m以上に該当する個体数は、南口0人・北口6人の計6人である。南口には該当者がなく北口においては半径400m

を超える大規模なアクティビティが展開されている。終点を見るとほとんどが商業施設以外のものであることがわかる。この移動距離の範囲では商業的アクティビティが起こりにくいことが推定される。

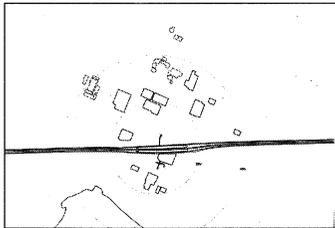


図3 行動経路0-50m

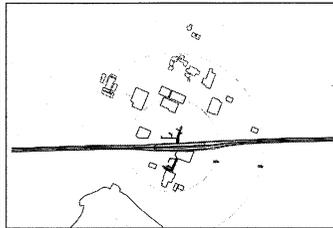


図4 行動経路51-100m

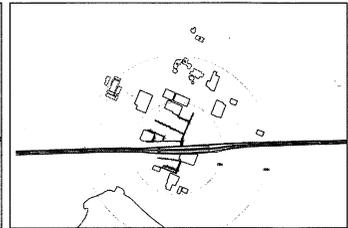


図5 行動経路101-150m

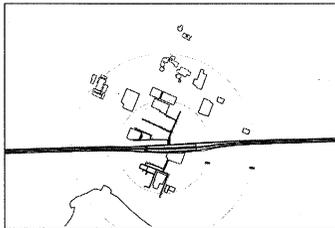


図6 行動経路151-200m

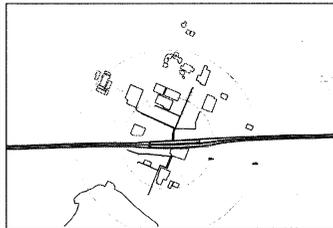


図7 行動経路201-250m

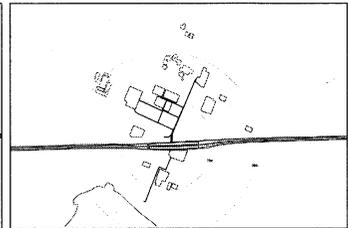


図8 行動経路251-300m

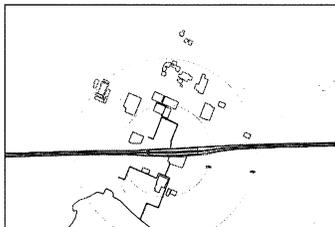


図9 行動経路301-350m

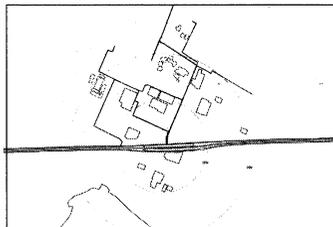


図10 行動経路351m以上

### 3.4 行動経路調査による考察

以上は紙面の関係上、部分的な分析の結果を示すこととなったが、性別や年代により、移動時間、行動距離に違いがあることが明らかになった。また全ての行動経路を重ねた図を、図11に示す。これにより吉祥寺駅周辺地域の人々の移動経路の大きな枠組みが明らかになる。

まず、さまざまな大きさの格子が入り組んだかたちで街路が構成されているにもかかわらず、行動経路の大きな軸はほぼ東西南北の軸に規定されていることが分かる。その中でも駅北口に南北に走るサンロード商店街の軸性は強い。そしてそれに直行する街路軸の中でも、大型百貨店などの規模の大きな商業施設への動線が大きく規定しているのも明らかである。また強い南北軸も南口から離れるに従い弱まり、駅による南北の分離という傾向がみてとれる。吉祥寺には駅から離れた位置に伊勢丹や東急百貨店などの大型商業施設が点在するように分散配置されているという特徴から、そこへ導かれるアクティビティが見られるが、逆に、大型商業施設より先には行動

経路が発生していないことから大型商業施設の配置関係によりアクティビティが限定されているということも言えるだろう。

また、吉祥寺の南口の井の頭公園に関しては今回の調査結果においては行動経路の集中は比較のみられなかったため、吉祥寺の商業集積地域としての特徴がより見られる結果となった。

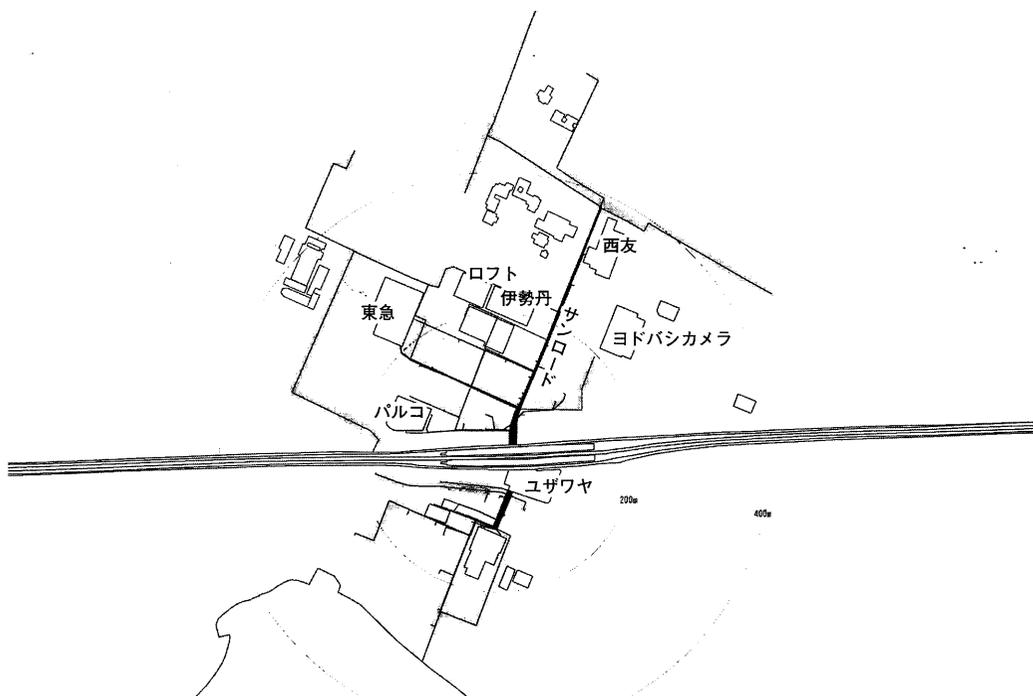


図 11 吉祥寺駅からの全ての調査行動経路

### 3.5 今後の課題

本稿においては、吉祥寺駅前からの行動経路の考察をおこなったが、吉祥寺駅前東部に位置する吉祥寺シアターにおいても、同様な行動経路調査をおこなった。その集計が現在進行中であり、また、大きく吉祥寺セントラル、イースト、ウエスト、井の頭公園地区と大きく4つのエリアに分かれる吉祥寺においてはさらに調査場所を増やし、これら相互の関連性を明らかにすることも今後の課題としてあげたいと思う。また吉祥寺イーストエリアの都市空間の歴史の変容に関しても住宅地図をベースに検証をおこなっている。これらの収集データをもとに、商店集積地域である吉祥寺における、商業地域の空間構成との関連性についても考察をおこなうことが今後の課題としてあげられる。

## 4. 吉祥寺駅前地域における地域活性化への取り組み

### 4.1 武蔵野市吉祥寺シアターカフェプロジェクト（地域活性化プロジェクト その1）

武蔵野市には、7つの公立文化施設（市民文化会館、芸能劇場、公会堂、スイングホール等）があり、プロの音楽利用、伝統芸能利用、市民利用等、緩やかに役割分担されている。その中で、本プロジェクトの会場となる吉祥寺シアターは2005年に建設された都心部における公立初の小劇場で、現代演劇やダンス等の同時代の舞台芸術を担う新しい施設である。舞台芸術の創造、普及および発信の拠点として、（財）武蔵野文化事業団による運営のもと、「現代演劇やダンスを中心とした舞台芸術の創造から、吉祥寺の新たな魅力を発信する」ことを目指している。

完成から3年後の2007年度の劇場利用率は96.2%と、市内の他の文化施設と比較（吉祥寺美術館：100%、武蔵野市文化会館大ホール：77.1%、同小ホール：92.2%、武蔵野芸能劇場小劇場：80.6%など）してみても、「演じる側」にとって非常に需要の高い施設であることがわかる（（財）武蔵野文化事業団HP内「平成19年度事業報告書・収支決算」より）。しかしその一方で、アーケードやデパート等、人が集まるエリアから少し離れた立地のせいもあり、シアター周辺の人通りは少なく、武蔵野市周辺住民や吉祥寺を利用する人々、つまり「見る側」にとって、依然、施設そのものの認知度や関心が低いという課題も抱えている。



写真4 カフェ打合せの様子



写真5 シアター現場協議の様子



写真6 現地での設置検討の様子

地域の活性化やまちづくりという観点からもこれらの公共施設（本プロジェクトにおいては劇場）を拠点として活性化への手法を探ることは非常に意味をもつものとなる。武蔵野大学環境学科住環境専攻では2008年度も研究活動とリンクをはかりプロジェクトを発足。まず2008年の4月から9月はその第一弾の企画として、吉祥寺シアター内にあるシアターカフェをベースに、『Café × Gallery ～みんなで作る写真展』と題して、街の人と劇場を結びつけるワークショップ、展示会の開催をおこなった。プロジェクト企画書の抜粋を図12に示す。



フェ内を埋めつくし、通常カフェとして機能しているシアターカフェをギャラリーとしても兼用した場所へと変化させることが目的である。展示された写真は吉祥寺の情報や人々の声を象徴するものであり、それをカフェ内に展示することによって、ギャラリーに来た人たち（第三者も含む）に情報を共有してもらい、情報の輪が広がっていくというコンセプトである。

写真のテーマ設定は3つ。「小さい頃にお遊戯会で演じた劇は何ですか？…（演劇に関すること）」、「吉祥寺で好きな場所はどこですか？…（吉祥寺に関すること）」、「あなたから他の人へつながる質問は？…（テーマの連結）」ということでおこなった。

また、インタビューの場所は、吉祥寺駅北口、吉祥寺駅南口、サンロード商店街、井の頭公園においておこなった。最終的に会期前までに125名の参加者の写真が完成し、展示をおこなった。



写真7 吉祥寺周辺でインタビューに回答頂いた参加者の写真例。会期中シアターカフェに展示された。



写真8 ギャラリー化したシアターカフェの内観



写真9 シアターカフェ会場の外観

#### 4.1.2 モノガタリづくりワークショップ—人々とシアター（演劇）を結ぶ

ギャラリー写真展を開催することと並行して、シアターカフェ来場者オリジナルのモノガタリづくりとしてひとつのストーリーを創作していく参加型のワークショップを開催。シアターカフェにおいて、カフェのお客さんや演劇を観劇しに来た来場者の方々にスケッチブックを渡し、即興でモノガタリを考えてもらう。1人1ページを担当し、リレー形式で短いモノガタリを繋いでひとつのストーリーを仕上げていく企画である。これは演劇の中の脚本という部分に着目をし、カフェを媒体とし、ストーリーづくりを通して演劇に触れてもらい、劇場と人々をつなぐというコンセプトである。会期中30名の参加者にストーリーを紡いでいただき、ひとつのモノガタリが完成した。

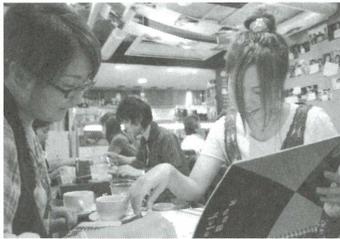


図 15 モノガタリワークショップのフライヤー

写真 10、11 モノガタリワークショップの様子



写真 12 モノガタリワークショップ参加者と成果。この写真もカフェ内に展示され日々増えていった。

本プロジェクトの取り組みは、雑誌『建築画報2008年10月号「シアターワークショップ劇場にかける夢」(2008年10月発行)において掲載、紹介された。



図 16 プロジェクトのニュース広報 (MGライフ 2008年12月号)



図 17 プロジェクトのフライヤー

## 4.2 吉祥寺・こどもとおとなの地域交流プロジェクト（地域活性化プロジェクト その2）

吉祥寺は、武蔵野大学からの最寄り駅の一つであり、地域の大学生をはじめとする在学生の多くにとって、「遊び場」でもあり、“若者の街”とも称される。その若者世代（学生の世代）が慣れ親しんだ吉祥寺のまちを、同世代だけでなく、子供たちやその保護者の方々の世代にも、交流の輪を広げていこう、という目的のプロジェクト。市街地の中心部である吉祥寺ロフトに道路対面する場所に位置する公共施設、武蔵野市地域情報コーナーに会場を選びプロジェクトを開催した。

学生世代にとって、「折り紙」は子どもの頃慣れ親しんだ遊びの一つ。「最近の子どもたちも、同じように折り紙遊びをするのだろうか…?」、そのような疑問から、子どもたちと一緒に折り紙をするプロジェクトを企画した。『大きなツルをつくろう～手のひらにのらないツルづくり～』と題して、展示会及び造形ワークショップをおこなった。



図 18 ワークショップ展示会のポスター



写真 13 会場の内観。5m × 5m と 3m × 3m の折紙ツルを展示

### 4.2.1 幼稚園園児によるワークショップ

展示会に先立ち、平成20年12月16日（火）に武蔵野大学附属幼稚園において幼稚園児を対象に、3m × 3mの特製折り紙を使って造形ワークショップを開催。5～6人のグループを作り、園児自身の身体よりも大きな折り紙造形にチャレンジした。計8体の巨大折鶴の創作をおこなった。



写真 14、15 折紙ワークショップの様子

写真 16 ワークショップ  
会場全体の様子



写真 17 ワークショップで完成した3m × 3mの折紙ツル8体

#### 4.2.2 おおきなツルをつくろう～手のひらにのらないツルづくり～ワークショップ展

平成21年1月31日(土)から2月4日(水)の5日間、武蔵野市地域情報コーナーにてワークショップ展を主催。地域情報コーナーを拠点として市内の子どもやその保護者を対象としたワークショップ『おおきなツルをつくろう～手のひらにのらないツルづくり～ワークショップ展』をおこなった。展示会の内容は以下である。

①5m × 5mの、特製折り紙を使った折鶴づくりワークショップ

②普通の折り紙(15cm × 15cm)を使った折鶴ワークショップと、その折鶴による空間造形

③武蔵野大学附属幼稚園において作成した巨大折鶴のディスプレイと、作業風景の映像展示

折り紙造形のワークショップには計30名程度の子供たちとその保護者の方が参加をして、大きなツルを創作し、会期期間中展示をおこなった。展示会場は会期間中子供たちとともに、多数の保護者の来場によりにぎわった。ワークショップの様子は武蔵野三鷹ケーブルテレビ『デイリー武蔵野三鷹』(2009年2月2日)にて放送された他、武蔵野市企画政策室市民協働推進課のホームページにおいて紹介された。



写真 18 折紙ワークショップの様子 写真 19 ケーブル TV 取材の様子 写真 20 折紙が会期中増える

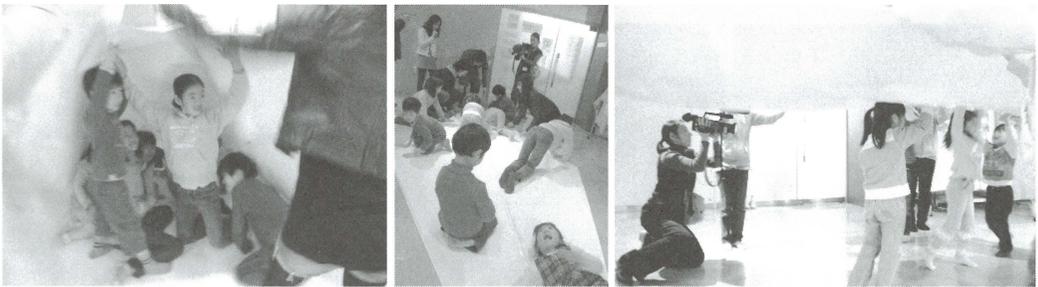


写真 21、22、23 5m × 5m の折紙で、『おおきなツルをつくろう～手のひらにのらないツルづくり～』

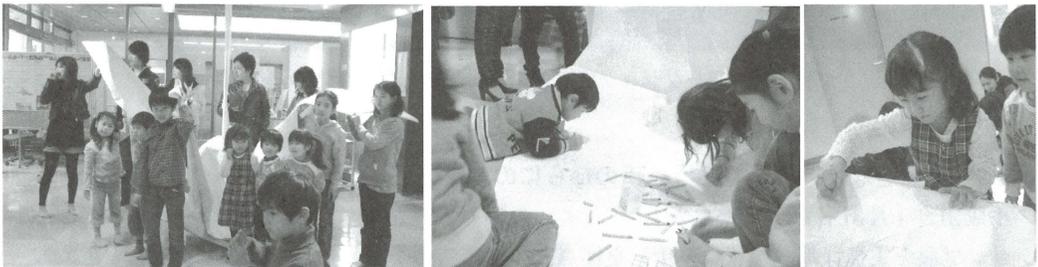


写真 24 完成した巨大折紙ツル

写真 25、26 参加した足跡として巨大ツルに絵を描く

## 5. おわりに

本稿の吉祥寺における取り組みは、各地域の市街地における商店街の衰退に対する活性化プロジェクトということからは意味合いが異なっている。但し、このような都市として自律した地域における取り組みをおこなうことによって課題点を考察することは地域の商店街活性化を考える上で意味があることと思われる。今回のようなプロジェクトの課題としてあげられることは、これは他の事例でも同様なことが言えるが、地域の人々の参加の輪をどれだけ広げられるかということである。特に広報を含めたPRをどこまで広く、深く浸透させるかということは課題であった。今回は特に公共施設をフィールドにおこなったため、ワークショップの運営に関してもさまざまな課題があり、他方面との交渉を含めた事前の制作、準備の工程をいかに密に構築できるかということが重要になってくるとと思われる。今後はさらに地域の参加者の輪を広げながら、地域

活性化を引き続き提案していくことにより、地域全体を含めた取り組みの構築を図ることが大切となってくる。

本論をまとめるにあたり、図版、表などの作成に武蔵野大学環境学科住環境専攻水谷研究室の江島沙織（卒業生）の協力を得た。またプロジェクトに協力頂いた株式会社シアターワークショップ伊東正示先生をはじめとするシアターカフェ関係者、小劇場勉強会関係者、エーワン株式会社、武蔵野大学附属幼稚園関係者や各関係者の方に感謝の意を表する。

#### 参考文献

- ・「吉祥寺グランドデザイン委員会」武蔵野市 都市整備部 吉祥寺まちづくり事務所 平成18年8月、p 1、1行～4行
- ・ホームページ、「吉祥寺タウン」歴史、<http://www.kichijoji-town.com/history/>  
注) 本稿中の2.1における吉祥寺の歴史などに関しては以上の資料を参考に記述した。
- ・「吉祥寺スタイル」三浦展 文藝春秋2007年4月  
注) 本稿中の2.2における調査範囲の駅を中心とした400mに関しては、他のさまざまな資料にも見てとれるが、p 33、1行～4行「アメリカの都市計画が目指す理想像。400mは時速4キロで歩いて6分。子供連れでも老人でも気軽に歩ける距離。」の記載があり、根拠のひとつとして参考にした。
- ・東京都武蔵野市区住宅地図  
株式会社ゼンリン 2005年4月  
注) 本稿中のアクティビティ調査において記載した地図などに関しては上記の住宅地図を参考に作成をおこなっている。
- ・本稿中の4.1、4.2における地域活性化への取り組みへの参加者は以下の通り。(学年は2008年度当時)  
4.1プロジェクトその1  
参加者：田島誠子、高倉小春（以上、4年）、市原亮、伊東絵里奈、霞武志、兼平佳和、鈴木梨絵、竹添友紀、任加琪、平祐貴、前田佳菜子（以上、3年）  
4.2プロジェクトその2  
参加者：石戸弘子、岩田司、木南裕子、佐藤志織、佐野杏奈、須賀愛美、鈴木政博、清宮由紀、高橋亜季子、廣瀬喜和子、廣瀬翔、八角紀子、山本大輝（以上、3年）